

令和四年度学力検査

A 国 語

(九時三十分～十時十五分、四十五分間)

問題用紙

注 意

- 一、「開始」の合図あいずがあるまで開いてはいけません。
- 二、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 三、問題は、**1** から **5** までで、六ページにわたって印刷してあります。
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に別紙1、裏に別紙2が印刷されています。
- 四、「開始」の合図で、解答用紙の決められた欄らんに受験番号を書きなさい。
- 五、問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 六、「終了」しゅうりょうの合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。

1

次の①～⑧の文の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。(八点)

- ① 川が緩やかに流れる。
- ② 窓から夜景を眺める。
- ③ 余暇にダンスを習う。
- ④ 生命の神秘を探る。
- ⑤ 知人の家をおとずれる。
- ⑥ 判断を専門家にゆだねる。
- ⑦ 部分から全体をすいそくする。
- ⑧ 家と駅との間をおうふくする。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

(一) 傍線部分(1)「龍之介は赤くなつて信司の口を押さえた」とあるが、この部分は、いくつの文節に分けられるか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、五
- イ、六
- ウ、七
- エ、八

(二) 傍線部分(2)「はずし」は動詞であるが、その活用形として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、未然形
- イ、連用形
- ウ、連体形
- エ、假定形

(三) 傍線部分(3)「おれは……もう、これ以上泳げないと思つていた」とあるが、次の [] の中は、「おれ」が海人と泳いだことでのどのような気持ちに変わったかについてまとめたものである。 [] に入る言葉を、本文中の言葉を使って三十字以上四十字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

「海人と泳げば、

[]

』という前向きな気持ちに変わった。

(四) 傍線部分(4)「海人がニヤリとした」とあるが、このときの海人の心情を説明したものととして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、海人は、「……でも、とりあえず、また来るかも」と言つた「おれ」の言葉や表情によつて「おれ」の迷いにはじめて気づき、「おれ」のことを支えようと心に決めている。
- イ、海人は、「……でも、とりあえず、また来るかも」と言つた「おれ」の言葉を聞き、「おれ」が東京のスイミングクラブで再び水泳を始める気持ちになつたことをうれしく思つている。
- ウ、海人は、「……でも、とりあえず、また来るかも」と言つた「おれ」の言葉を聞く前から、「おれ」がまた来るだろうと予想をしていたので、やはり自分の思つたとおりだと感じてゐる。
- エ、海人は、「……でも、とりあえず、また来るかも」と言つた「おれ」の言葉が、「おれ」の本心だと龍之介や信司が気づいていたことをおもしろがっている。

(五) 傍線部分(5)「なんで、同じこと、考えてんだよ」とあるが、「おれ」と海人が考えた「同じこと」とはどのようなことか、「……ということ。」につながるように、本文中の言葉を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

(一) 傍線部分①「いかなければならない」「なければ」と「ない」の品詞の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、「なければ」―動詞 「ない」―形容詞 イ、「なければ」―形容詞 「ない」―助動詞
 ウ、「なければ」―形容動詞 「ない」―形容詞 エ、「なければ」―助動詞 「ない」―助動詞

(二) 波線部分①～④は、スポーツまたは家屋を持つ「文明」、「文化」のいずれかの面をあらわしている。本文中の筆者の主張に合う「文明」、「文化」の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、「文明」―① ③ 「文化」―② ④ 「文化」―② ③
 ウ、「文明」―② ③ 「文化」―① ④ エ、「文明」―② ④ 「文化」―① ③

(三) 文中の [] に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、つまり イ、ところで ウ、しかし エ、なぜなら

(四) 次の【話し合いの様子】は、Aさんの班で別紙2の文章について話し合ったときのものである。これを読んで、【話し合いの様子】の [] に入る言葉として最も適当なものを、 [] は【話し合いの様子】の中の二重傍線部分①、②のいずれかを一つ選んでその記号を書きなさい。 [] は本文中から二十五字以上三十五字以内で抜き出して書きなさい。(句読点も一字に数える。)

Aさん	知りたいという気持ちには、二種類の動機があると筆者は言っているね。筆者の言う二種類の動機って何だろう。
Bさん	ひとつは、世界がどうなっているかが分かるような [] 一種の見取り図のようなもの、あるいは地図のようなものがほしいという願望のことだね。
Cさん	もうひとつは、何かができるようにになりたいという気持ちのことだね。
Aさん	そうだね。筆者は、「ある行為ができるようになる」という気持ちや「何かを達成して、自分が世界のなかで効力を持てる存在になりたい」とも言っているね。
Bさん	[] は、先人たちの残してくれた知識や先人の築いた知識とも言っているよ。
Aさん	筆者は、何かをできるようにになりたい、それで苦しみを取り除いたり、楽しみを増やしたりしたい、そういう気持ちがあれば、知識を求める意欲が湧かないから、いくら先人の築いた知識があっても、自分の行動の役に立ってくれなければ意味がないと言っているね。
Bさん	何かができるようにになりたいと思う気持ちは、何かをやってみたり、あるいは、だれかが何かをやっているのを見たりして、それが苦しみを取り除き、楽しみを与えてくれるのを知る経験から生まれると言っているよ。
Cさん	そのことについては、筆者がレストランを営む例をあげて説明しているね。とてもよいレストランを作ろうと思ったら、たくさん学ぶべきことがあることに気づくと言っているよ。
Aさん	そうだね。筆者は、何かができるようにになりたいという意欲は、 [] 気持ちにつながると言っているね。

(次のページへ)

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(八点)

今はむかし、八月十五日夜は、名におふ月の満てる時分なり。この夜は、日と月とさし望む事の正しければ、月の光もことさらに

明らかなる故に望月とも云ふなり。又、まんまるに満つる故に餅月といふとも申し伝へし。詩作り・哥詠みども、日ごろより

含み句をこしらへて、只今作りしやうにもてなし、うめきすめきて 詠み出だす。さるまゝに日暮より雲うずまきて雨ふり

出でしかば、かねて作りける詩歌相違して、夜ふくれども一首も出でず。「浮世房、いかにいかに」と仰せられしかば、

仰のきうつぶき、麦穂の風にふかるるやうにして案じける折節、鷹のわたる声聞こえければ、「雲外に鷹を聞きて夜声を」と

となへさまに、不図思ひよりてかくぞ詠みける。

雨が降つたのでこの十五夜も真つ暗闇になつてしまつたが、その暗がりの中に、二千里渡つて行くという鷹の声が聞こえてくる

雨ふれば三五夜中の真の闇二千里わたるくらかりの声

(『新編 日本古典文学全集 浮世物語』による。)

* 一部表記を改めたところがある。

(注1) 望月

陰曆十五夜の月の異称。

(注2) 詩作り・哥詠みども

漢詩を作る人や和歌を詠む人。

(注3) 浮世房

浮世物語の主人公。出家して浮世房と名乗つた。

(一) 傍線部分①「作りしやうに」を現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで書きなさい。

(二) 傍線部分②「雲外に鴈を聞きて夜声を」とあるが、次の [] の中の漢文には傍線部分②と同じ言葉が含まれている。

二重傍線部分「雲外聞鴻夜射声」を「雲外に鴻を聞いて夜声を射る」と読むことができるように返り点をつけたものは、あとのア、エのうちどれか。最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

雪中放馬朝尋跡

(雪中に馬を放つて朝に跡を尋ぬ)

雲外聞鴻夜射声

(雲外に鴻を聞いて夜声を射る)

(『新編 日本古典文学全集 和漢朗詠集』による。)

* 一部表記を改めたところがある。

ア、雲外聞鴻夜射声
ウ、雲外聞鴻夜射声

イ、雲外聞鴻夜射声
エ、雲外聞鴻夜射声

(三) 波線部分①「詠み出だす」と波線部分②「詠みける」について、これらの主語の組み合わせとして最も適当なものを、次のア、エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、(1) 浮世房

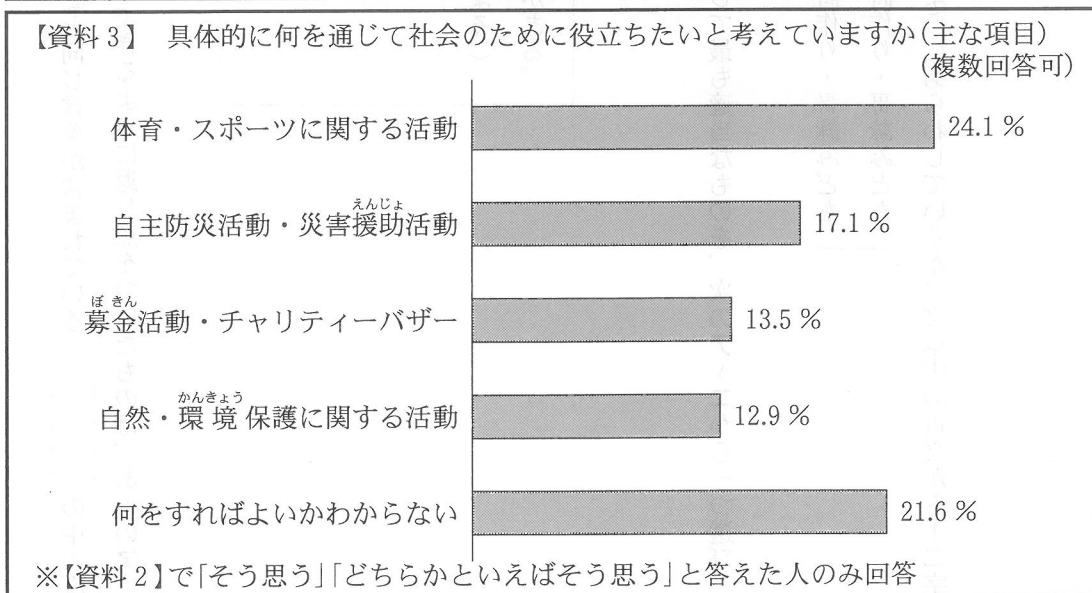
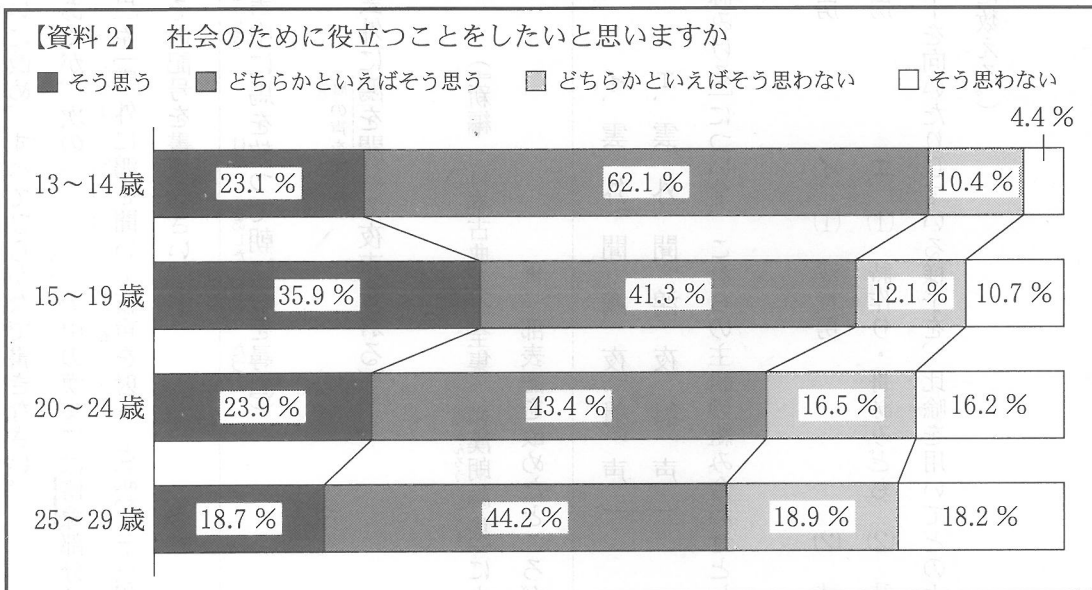
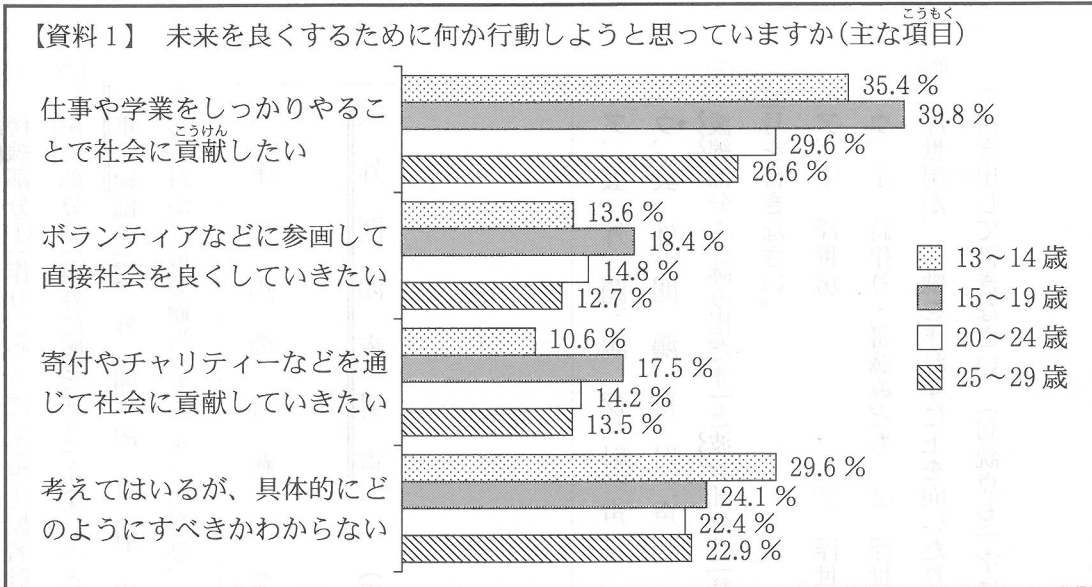
(2) 浮世房

イ、(1) 浮世房

(2) 詩作り・哥詠みども

(四) 浮世房が、詩歌を作れず上を向いたり下を向いたりしている様子を、比喻を用いてどのようにあらわしているか。文章中の古文から十二字以内で抜き出して書きなさい。(句読点も一字に数える。)

次の【資料1】、【資料2】、【資料3】は、内閣府が十三歳以上二十九歳以下の人を対象に実施した「子供・若者の意識に関する調査(令和元年度)」についての結果をまとめたものである。これらを見て、あとの各問いに答えなさい。(十点)



[内閣府「子供・若者の意識に関する調査(令和元年度)」から作成]

(一) 【資料1】から読み取れることについて、あてはまらないものを次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、「仕事や学業をしつかりやることで社会に貢献したい」と答えた人の割合は、すべての年代で他の項目より大きく、十三～十四歳、十五～十九歳では三割を超えている。
- イ、「ボランティアなどに参画して直接社会を良くしていきたい」と答えた人の割合と「寄付やチャリティーなどを通じて社会に貢献していきたい」と答えた人の割合は、十五～十九歳が最も大きい。
- ウ、「寄付やチャリティーなどを通じて社会に貢献していききたい」と答えた人の割合は、すべての年代において二割以下であり、年代別に見ると、十三～十四歳の割合が最も小さい。
- エ、「考えてはいるが、具体的にどのようになればいいかわからない」と答えた人の割合は、十三～十四歳が最も大きく、年代が上がるにつれて小さくなっていく。

(二) 【資料2】から読み取れることを、次の [] の中の文にまとめた。 [①] [②] [③] に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、あとのア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

「社会のために役立つことをしたいと思いますか」についての回答では、「そう思う」と答えた人と、「どちらかといえばそう思う」と答えた人とを合計した割合は、年代が上がるにつれて小さくなっていく。

また、「どちらかといえばそう思わない」と答えた人と、「そう思わない」と答えた人とを合計した割合は、二十～二十四歳、二十五～二十九歳で三割を超えている。

年代別に見ると、 [①] は、 [②] に比べて [③] と答えた人の割合が小さく、また、「そう思わない」と答えた人の割合は他の年代と比べて最も小さい。

- | | | | | | | |
|----|---|--------|---|---------|---|------------------|
| ア、 | ① | 十三～十四歳 | ② | 十五～十九歳 | ③ | 「そう思う」 |
| イ、 | ① | 十三～十四歳 | ② | 二十～二十四歳 | ③ | 「どちらかといえばそう思う」 |
| ウ、 | ① | 十五～十九歳 | ② | 十三～十四歳 | ③ | 「どちらかといえばそう思わない」 |
| エ、 | ① | 十五～十九歳 | ② | 二十～二十四歳 | ③ | 「そう思う」 |

(三) 【資料3】から、具体的な活動を通じて社会のために役立ちたいと考えている人がいることがわかる。あなたはどのようにして社会のために役立ちたいと考えるか。あなたの考えを、次の「作文の注意」にしたがって書きなさい。

〔作文の注意〕

- ① 題名は書かずに本文から書き出しなさい。
- ② あなたが考える理由を明らかにして、具体的に書きなさい。なお、【資料3】の項目は、参考にしてもしなくてもよい。
- ③ あなたの考えが的確に伝わるように書きなさい。
- ④ 原稿用紙の使い方にしたがって、全体を百六十文字以上二百文字以内にまとめなさい。